



ものづくり

復興
とは？

世界を目指せ
「ミガキイチゴ」

株式会社GRA代表取締役
岩佐大輝さん
【宮城県】



岩佐大輝さん

岩佐さんは、故郷の山元町をなんとかしたいという思いから、震災後すぐにNPOとしての活動を開始。被災してほとんどが失われたイチゴの生産現場をなんとか復活させたいと奔走している。学生時代に起業してIT企業を営んでいた岩佐さんに農業の今と未来を話っていた。

中高生へのメッセージ

食に携わるビジネスというのは、人々の最も重要な生命の基盤を担う礎になるものです。是非、皆さんに農業や食のビジネスにチャレンジしていただきたい。そういった取り組みを私は全力で応援したいと思っています。

震災以前のこと

24歳の時にIT関係の会社を立ち上げました。私は宮城県山元町の出身ですが、そこから上京して大学に入り、在学中に会社を作ったんです。その会社を10数年経営してきた時に震災が起きました。

震災から現在

震災の日は休みで、東京都内の自宅にいました。もの凄く揺れてすぐにテレビをつけました。そうしたら自分が良く知っている町が津波に飲み込まれていく映像が映し出された。驚きました。古里は全壊したのかもしれないと思いました。電話は繋がりませんでした。山元町にいる両親の安否すら分からず、とにかく不安でした。震災の翌日か翌々日に、車にありったけの援助物資を積んで山元町へ向かいました。幸い両親は無事でしたが、そこには変わり果てた古里の姿があり、衝撃を受けました。

山元町は人口のおよそ4%の人が亡くなってしまった。生きていく自分出来る事って何だろうと、自問自答しました。まずは出来ることからボランティア活動を始めました。一旦東京に戻り、経営者仲間やMBAをとるために通っていた大学の仲間と団体を立ち上げ、震災の翌月から毎月ボランティア活動に足を運びました。

活動の中で、町の人たちから言われたのは「君たちはビジネスパートナーだ。泥かきはあるがたいが、働く場所を作ってくれ」と。その言葉を聞いて、これは自分の使命だと感じましたね。これまで学んだ事を古里の復興のために使わないでどうするんだ、という使命感も湧いてきました。ボランティア活動をしなから、震災前は町の経済を支えていたイチゴの再生に全エネルギーを傾注しました。こう

して2012年1月、仲間と農業生産法人の株式会社GRAを立ち上げました。

実は震災前まで、古里のために何かしたいという思いはありませんでした。離れて長い年月が経っていましたから、戻って何かするとは夢にも思わなかった。でも、震災を経験して、あの現場を見て、いろいろな方々と出会って、たくさんのお話を学んで、今こそ東北に身を捧げる時だ、と決意に至ったわけです。

GRAの事業の柱はイチゴの生産と販売です。津波被害を受けた土地に太陽光利用型の植物工場をつくり、栽培しています。農業とITを融合させているんですね。収穫したイチゴは「ミガキイチゴ」というブランド名で全国販売しています。生産だけでなく、ブランディングなども手掛けています。ミガキイチゴは2013年度のグッドデザイン賞を受賞しました。1粒1000円の値段がつくんですよ。

ミガキイチゴで作ったスパークリングワインや化粧品もある。私の仲間は地方を賑やかにしたいという思いが強い人たちが集まっている。イチゴの農業ビジネスは極めて難しいけれども、やりがいがある。それでみんなが団結してここまでやってきました。

将来のビジョン

まずは山元町のイチゴ作りを今以上に安定させたい。次に、新しく農業をやるうとして新規就農者を支援するビジネスをやりたい。それと、今インドでもイチゴを生産していますが、他の国々でも需要があるところへ行ってみようと思っています。こんな事に力を入れていきたいと思っています。